

令和元年度 第2回岡山県立図書館協議会

日 時：令和2年2月21日（金）14：00～15：30

場 所：岡山県立図書館 サークル活動室1

出席者 ○委員：秋山委員、小野委員、貝原委員、伐明委員、工藤委員、土井委員、二部野委員、道広委員、宮野委員、八束委員

○県立図書館：狩屋館長、奥山副館長（総務・メディア課長）、林総括参事（サービス第一課長）、笠原図書館振興課長、松本資料情報課長、鳥越総括副参事（サービス第二課社会科学班長）、神田総括主幹（企画・メディア班長）

欠席者 ○清友総括参事（サービス第二課長）

1 開会

2 開会挨拶

県立図書館 狩屋館長 挨拶

3 協議・報告

(1) 令和元年度事業概要について

資料1

資料に基づき、事務局から説明

【委員】

保健福祉部との連携講座は新しいものか？

【事務局】

そうだが、保健福祉部も含め、県庁各課との連携は従来から行っており、その中の一つである。

【委員】

連携講座の参加人数はだいたい例年これくらいの人数か？

【事務局】

内容によって100人を超えるものもあるが、70から80人くらいではないか。事前の申し込みが少ない場合は、当日館内放送すると急遽参加される方もおられる。

【委員】

事前申し込みが必要なのか？

【事務局】

そうである。申込状況が芳しくない場合は、館内放送も効果的だ。

【委員】

開催は何を見ればわかるのか？ホームページを見るしかないのか？

【事務局】

ホームページの他にはチラシ、ツイッター、フェイスブック。表の掲示板を見て来られる方もおられる。

【委員】

ラインは使っていないのか？

【事務局】

ラインはやっていない。

【委員】

今はわりとラインを使う人が多い。今は喫茶店でもこんなイベントやっています、とラインで発信していることがある。

【事務局】

今後研究させてもらう。

【委員】

せっかく開催しても県立図書館へ来なければ情報を得られない。毎日ホームページを見ている人ならいいが。

【委員】

今はiPhoneで情報収集する方が早い。せっかくやるなら、いい内容でもあるので参加してもらいたい。

【委員】

男女比はどうなっているか。女性が多いのか？

【事務局】

男女半々くらいではないか。年齢層は中高年が多い。ご夫妻で来られているような方もある。

【委員】

中高生のティーンズコーナーが充実している。中学校などへ案内しているのであれば、先ほどの話につながるが中高生はラインを使っている。最近、町の取組がラインで流れるようになってきている。町内の方が、行事に行けなくても伝わるようになったと言っている。

【委員】

ぜひ検討を。次に、2000万冊達成記念のクリアファイルはどのようなものか。

【事務局】

これからお配りする。

(2) 令和2年度当初予算の概要について

資料2

資料に基づき、事務局から説明

【委員】

空調改修は館全体のものか？これによりかなりの省エネができるのではないかと？

【事務局】

館全体のものであるが、いわゆるコンプレッサーという空気を冷却する機械の調子が悪い。この改修により効率的に空気を冷やすことができると思うので、電気代負担の効果も期待している。

【委員】

15年で故障するのか。

【事務局】

大型機械なので、老朽化するのが早いのもかもしれない。ここ数年7～9月の入館者数が減っているので何が原因かと考えているが、これも要因の一つかもしれない。できれば夏に間に合わせたかったが、もう一年先となっている。

(3) 岡山県内市町村立図書館の動向について

資料3

資料に基づき、事務局から説明

【委員】

県内図書館で業者が入っているところはあるか？

【事務局】

運営に指定管理者制度を導入しているのは県内で3館ある。一番古くは新見市の哲西図書館で地元のNPO法人が入っている。高梁市がCCC（カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社）。玉野市がTRC（株式会社図書館流通センター）である。県立図書館と岡山市立中央図書館については、施設管理で指定管理者制度を導入しているが、図書館業務で指定管理者制度を導入しているのは3館である。

【委員】

全国的には指定管理は増えているのか？

【事務局】

増えてきている状況である。

【委員】

高梁市成羽図書館が公民館図書室になるというのは、なにか経緯があるのか？

【事務局】

合併前の成羽町時代からの流れもあって図書館であったが、その他の有漢地域や備中地域については公民館図書室であった。高梁市は複合施設を建設するというので、他の地域との兼ね合いもあって公民館図書室にするということになったようだ。図書館のシステム自体は統合したものが入っており、業務が大きく変わることはない。職員も引き続き図書館に入ると聞いている。こういったことで図書館設置条例については見直されるということ。

【委員】

備前市の図書館が入らないというのは、何か地元のアンケートなどの動きがあっただけか？

【事務局】

詳しくは分からない。2月11日の新聞報道では、備前市がアルファビゼンをどう使うか3つの案があり、A案が「つどう」をテーマにイベント広場と連動した「軒下広場」を整備、B案が「学ぶ」をテーマにしてキッズルームやギャラリーを設けるもの、C案が「公園と一体となった交流施設」で、屋内や屋上、屋根付きなど多数の広場を設ける、というもの。これらの3案について市民の声を聴く会の席上で、市から市民からの要望が強い図書館と住居施設については構造上の問題で活用が難しいということで検討しな

い方針であるとの話が新聞報道されている。どういう施設ができるかはまだよく分からない。

【委員】

新庄村は予定はないのか？

【事務局】

聞いていない。西栗倉村にできると図書館設置条例に基づく図書館がないのは新庄村だけとなる。

(4) その他

【委員】

岡山県立図書館で本の予約をすると予約が何件か出るが、人気がある本だと予約がすぐ20件とか30件とか予約がたまって、50件とかになるとほぼ2年くらい待たなければならない。そう考えるとお客様には待っていただけないと思う。個人の方だとあなたは何番目です、とか何年後のいつ頃です、という表示ができないものか。自分が今何番目かわからない。今頃では歯医者などでも予約すると自分が何時ごろかと分かるようになっている。来年度の新システム更新の際にはログインすると自分の予約した本が今何番目なのかや、いつ頃貸出予定なのかわかるようにしてもらいたい。あまりにも先だと予約をキャンセルして、とりあえず予約するという方が減るのではないか。自分の自治体の図書館で予約をするかリクエストするなどして、とりあえず予約をするという人が淘汰されて、本当に読みたい人だけが残るのではないか。当館では予約が5件になると何とかして本を買う手続きをしているが、3カ月が限度でそれでも長すぎると言われる。新システムでは対応できるようにしてもらいたい。

【事務局】

確認する。

【委員】

予約が入っている資料については督促をしているのか？

【事務局】

督促している。延長もできない。

【委員】

高梁市の図書館は2日前から毎日督促が来る。1日に1回必ずメールが来る。それくらいでもいいのかな、と思う。

【事務局】

検討したい。

【委員】

倉敷市の図書館では沢山の予約が入っていても、途中の人がキャンセルするためか予約しても割と早く来る。

【委員】

倉敷市の図書館は市内5館の図書館の予約が全て集計されているので、5館のうちどこかの館に本があればすぐに順番が来るのではないか。

【事務局】

要検討としたい。

【委員】

日本経済新聞で鳥取県立図書館が特集されていた。地元の中小企業経営者らと懇親会を定期的に行っているとのことだった。色々な分野での結びつきを紹介されているが、岡山県立図書館ではどうか、取組みをお聞きしたい。また、東京の図書館では予約制の貸会議場が人気があるとのことだった。岡山県立でも取組みをされているのかもしれないが、どのような状況か聞きたい。自分はなかなか仕事関係で図書館を利用したことがなかったが、ビジネスパーソンに向けた取組みは怎么样了。

【事務局】

まず主催事業では一般向けに「創業&フォローアップセミナー」を開催している。県の産業振興財団から講師を派遣してもらって講演会を行っている。その後に交換会や個別の相談会を開催している。また、ビジネス支援をサポートできるデータベースのMi e Na（ミーナ）を用意している。共催事業では「プレ・インキュベーションセミナー」を岡山県産業振興財団と開催した。起業に向けて隔週土曜程度当館に来館していただき、起業のノウハウを学んでいただいている。また、4年前から高校生ビジネスプラン・グランプリを開催しており、今年度は金光学園が全国3位に入るという成績で、当館ホームページでも掲載予定である。

【委員】

実際の起業支援の成果はどうか。

【事務局】

成果は当館の指標にもある。当館講座を受けてすぐ起業するとは限らないので、その年によりばらつきがあるが、ある程度の結果が出ていると思われる。

【委員】

子ども向けは多いが、今まで来ていない層を増やしてもらいたい。

【事務局】

会議室については、多目的ホールやサークル活動室など当館でも一般に開放しており、企業の方もかなり利用していただいている。

【委員】

先日、鳥取県立図書館に行ったが、児童書コーナーに学校の教科書に出てくる話の本が全部そろった部屋があった。学校の朝読の参考になると思った。

【委員】

子どもたちが自分から本を手取る機会が減っている。文学作品に触れる機会が教科書くらいしかなくなっている。国の方針で、高校の現代国語の教科書から文学作品を除外しようとする方向ということだが、これは大きな問題だと思う。書類を読む力だけある子を育てて、感性や想像力を摘むようなことになるのではないかと心配している。教科書で読書の入り口を広げてほしいと思う。また、図書館ではコロナウィルスについての対応をどうしているか？

【事務局】

過去の新型インフルエンザのころから閲覧室入口に手指消毒剤を設置しているし、職員も気をつけている。また、厚労省の指導を入口に掲示して周知している。特に窓口で

苦情を言われたようなことはないようだ。

【委員】

個人的な意見として、過敏に反応しなくても良いと思う。もちろん、手洗いをして清潔にしなければならないし、せきが出る人はマスクを絶対してほしい。しかし、症状がない人までマスクをするのはちょっと過剰すぎると思う。もちろん、症状がでたらすぐ病院に行って検査してほしい。今度のウィルスは感染しやすいらしいので、その意味では怖い時期がくれば終焉するのではないか。

【委員】

国の読書バリアフリー法について、目が不自由な人がメインになるのかもしれないが、いろいろな人に読書機会を提供するということで、障害のある方へのサービスはどうなっているか。

【事務局】

視覚障害者サービスとしてはサピエ図書館を契約してダウンロードして利用していただけるようにしている。来館が難しく、再生機器をお持ちでない場合は携帯音楽プレイヤーのような形で持ち運びができる機器を貸し出している。大活字本やLLブック、マルチメディアデージーも用意している。また、一般向けではあるが2階に朗読CDがあり、障害者の方でも利用していただける。

【委員】

サピエに登録されている本を体験しようとする場合はここへ来るのか？

【事務局】

予約をして使っていただいている。また、対面朗読サービスも行っている。当館には対面朗読室があるので、ボランティアの力を借りて最大2時間の対面朗読サービスを行っている。

【委員】

バリアフリーを広げるという意味では電子図書も有効なのではないか。

【事務局】

タブレットで大きく広げられるなど便利であるが、一般書のコンテンツが充実していない部分もある。今のところ雑誌やコミックが多いようだ。